



「新年度が始まって」

校長 安藤 和義

四月六日の入学式では、幼稚部三歳十一名、四歳一名、五歳一名の十三名、小学部一年生十名、六年生一名の十一名の新入生を迎えました。新入生の皆さん、保護者の皆様、入学おめでとうございます。令和三年度は、六十九名の在校生を加え、幼児児童九十三名でスタートしました。

本年度も「正しく 明るく 強く」の校訓のもと、幼児児童の安全を第一に考えた教育活動を展開し、幼児児童の社会自立に向けて、確かな学力とコミュニケーションの力を身に付けることを目標に、教職員が一丸となって、一人一人に応じた学習指導と支援をまいります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に際しまして、保護者の皆様をはじめ、関係諸機関の皆様の御理解と御協力に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。令和二年一月十六日、日本で新型コロナウイルスに関連する肺炎が確認されて以来、毎日新規感染者数が報道されています。学校では、感染防止対策を徹底しながら、教育活動を継続してまいります。しかし、感染状況により、幼児児童の安全を最優先に考えて教育活動を制限せざるを得ないことも考えられますので、今後とも、本校の教育活動に御理解と御協力、御支援をいただきますようお願いいたします。

「幼稚部に入学して」

三歳保護者

「三十数年前に私も通っていた幼稚部」

季節ごとの行事、友達との関わり方など、基本的なことをたくさん学び、経験させていただきました。今は息子のこころと一緒に学校へ行く準備をしたり、先生や友達のことを話したりしています。親子で通い学ぶ中で、私とは違うマイペースでのんびり屋さんこのころの視点に驚きながらも、新しい発見があり、心配なこともあります。これからの我が子の成長が楽しみです、期待がふくらみます。

「小学部に入学して」

一年保護者

この春から小学生になった。親も私も新しいことに挑戦していく。できないこと、どうにもならないことを体験していくことを経て彼と共に学び、共に失敗をして、寄り添っていったらと思っている。出会う人やあらゆる出来事に思いを馳せて、どうしていききたいのか、誰かの為ではなく、自身の欲求や意欲に素直に、五感を使って体験して行ってほしい。「生きていくことは面白い」という心を小学部、生活を通じて養っていったらと願う。

転出された先生からのお便り

伊藤 博樹

皆さん、お元気ですか。

私は四月一日から再任用の事務職として、中川商業高校に勤務しています。私の「担当」は、人件費、物品と文書です。新しく覚えることがあり、驚きの毎日です。まずは学校に慣れること、次に仕事に慣れること、他の職員と仲良くすることです。千種町の皆さんには大変お世話になりました。

百々 由紀子

皆さん、こんにちは。私は、定年を迎え学校を去ることになりました。病気の治療で学校を休み、皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。しかし、退職を迎える前に皆さんと過ごすことができて、とても幸せでした。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。



